

問題一

問一 A 醸成 B 埋没 C 屈辱

D 尋（訊）問 E 名誉

問二 同じ共同体に属し、同質の価値観を共有していること。

（二五字）

問三 書簡が集団の壁を越えようとする主人公と読者を一体化

したから。（三〇字）

問四 人間としての共感に基づく人権思想は、その定義により

すべての人に尊厳や権利を認める動向を生むから。（四八字）

問題二

問い一 その弊害の種類は非常に多く、全てを挙げきれないが、

ひとまず顕著な例を一つ二つ挙げると

問い二 翻訳に漢籍語を用いると西洋人の意図にない意味まで加

わるから。(三〇字)

問い三 原典の筆者を尊重し、文意を厳密に伝えることに細心の

注意を払う翻訳者がそろそろ現れてほしいということ。

(五〇字)

問題三

被害者が加害者に与える赦しは、両者の道徳的関係を修復するプロセスである。赦しには集団間、集団から個人へ、個人間、個人から集団へという四つの形態があり、最も好ましいものは個人間の赦しである。それは被害者の道徳と良心に基づき、双方が過去の悲劇を受容し、未来への展望を開き、被害者にも力を与えるからだ。誠実さと良心に基づく赦しは困難だが、だからこそ紛争後の世界に平和と正義をもたらす最後の望みなのである。（一九九字）